

NPO 法人タイガーマスク基金

2018 年 卒業生アンケート調査結果について

4 年間の継続支援をスタートさせてから初めての卒業生を送りだしました！

タイガーマスク基金は、設立当初から皆さまのご寄付を児童養護施設の子どもたちの大学進学支援金として役立たせていただいておりますが、2013 年までは入学時に一番費用がかかることから、入学時に一律 10 万円を奨学金として届けておりました。その後、大学進学を果たしても、頼れる家族がないため、衣食住全てを一人で工面しなければならないことから、生活のためのアルバイトと大学の両立が難しいという学生たちの現実を考慮し、2014 年 4 月入学者から 4 年間で 30 万円（初年度 12 万円+進級時に 6 万円ずつ給付）という継続支援をスタート。その第一期生が 2018 年 3 月に卒業を迎えたため、利用者にアンケート調査を行い 33 名中 21 名の回答が得られましたので、以下に報告いたします。

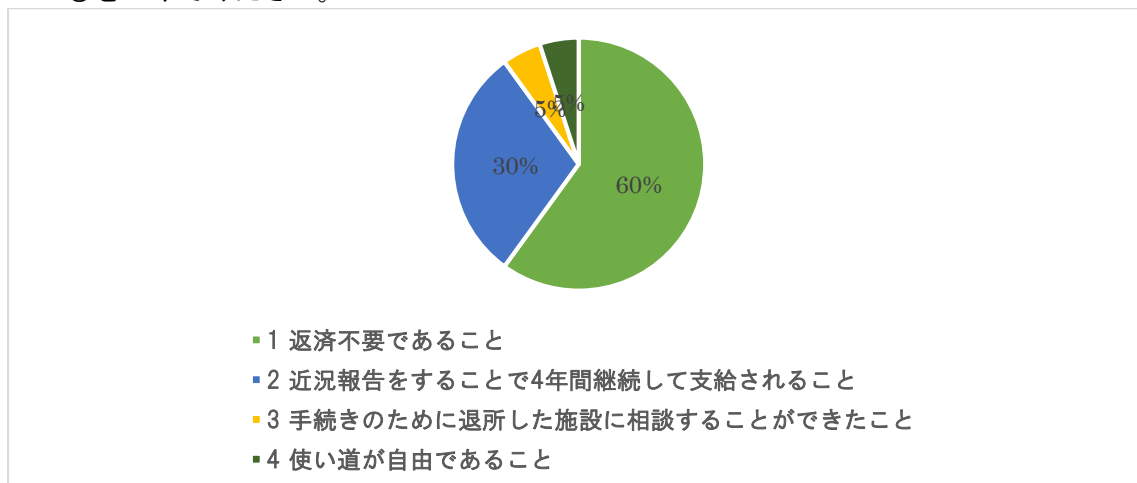
【設問 1】 卒業後の進路について<利用者 33 名中 21 名が回答（回答率 64%）>

就職	17 名
大学院	3 名
その他	留年 1 名(他、12 名は返送なし)

【設問 2】 「タイガー進学支援金」はどの程度お役にたてましたか？当てはまる番号に○をつけてください。

1	とても役に立った	100%
2	役に立った	0%
3	あまり役に立たなかった	0%
4	役に立たなかった	0%

【設問 3】 「1 とても役に立った」「2 役に立った」を選んだ方は、その理由に最も近い番号を 1 つ選んで○をつけてください。



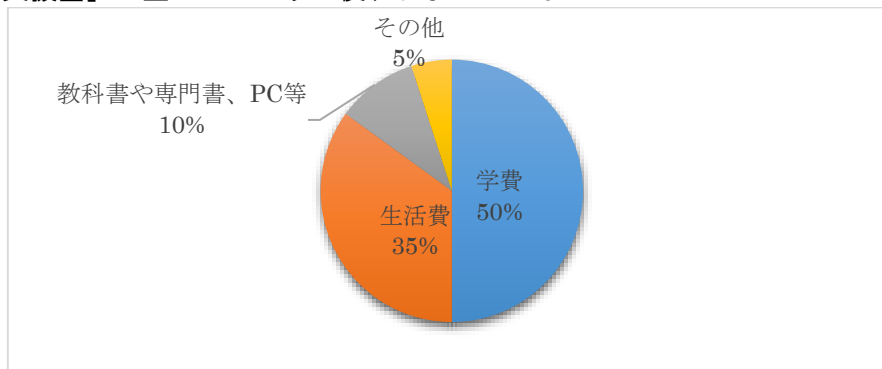
<5・高校時代の成績が不問であること >

<6・保証人が不要であること>についての 回答は 0 名であった。

<設問 3>の「自由コメント」として「今でも施設と連絡がとれるのは、タイガーマスク基金のおかげだと思っています」という回答がありました。施設を退所してしまうと、若者たちからは施設に連絡する機会はあまりなく、疎遠になってしまうと困難に直面しても相談できないことが多いことから、タイガーマスク基金の進学支援制度は、退所後もあえて施設の担当者を通じて手続きする仕組みにしています。施設側にとっては書類の準備を通じて、学生たちの様子を把握でき、学生たちにとっては手続きを通じて、担当者に相談するきっかけとして今後も活用して欲しいと思います。

<設問 4>の「自由コメント」に「検定料や受験料など、細かな部分での出費に対して助けになった」という記載がありました。4 年間の支援金の総額は多くはありませんが、用途を授業料に限定しないことで、スマートフォンやパソコンの購入費、各種資格試験の費用、実習や就職活動などでアルバイトができない時の生活費にも役立てられていることが把握できました。

【設問 4】 「進学支援金」は主にどのように使われましたか？



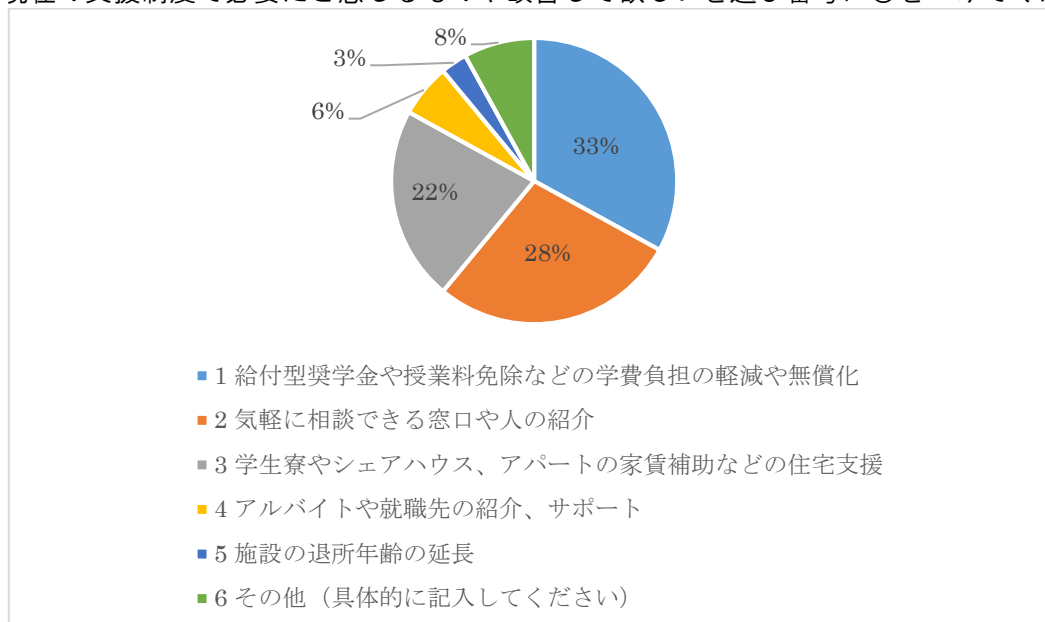
その他(具体的に記入してください…TOEIC や各種資格試験の受験料等)

【設問 5】 大学生活の中で一番大変だったことは何ですか？

1位	学費や家賃、生活費などの経済的問題
2位	学業
3位	アルバイトと大学の両立
4位	一人暮らしの生活(自炊や身の回りのことを自分でやること)
5位	学校や友人、アルバイト先での人間関係
6位	その他(賃貸契約の保証人、家族との関係)

今から約50年前、国立大学の授業料は年間約1万2000円程度でしたが、1970年代から90年代にかけて、日本の大学授業料は徐々に高騰していきます。現在の国公立大学は入学関連だけでも平均約70万円、在学中に年間約109万円かかり、4年間で合計約500万円にもなります。OECD加盟国において、国内総生産(GDP)のうち小学校から大学までの教育機関に対する公的支出の割合を見ると、日本は2.9%と比較可能な34か国中で最下位と教育に関わる費用が公的資金で賄われる割合が低く、高い学費を家庭が負担している実態が垣間見えます。私たち自身も、親に学費や家賃・光熱費、生活費など多くを頼りながら、社会人となりましたが、それが一切できない施設出身者に対しては、周囲の理解と更なる応援が必要です。

【設問 6】 現在の支援制度で必要だと感じるものや改善して欲しいを選び番号に○をつけてください。



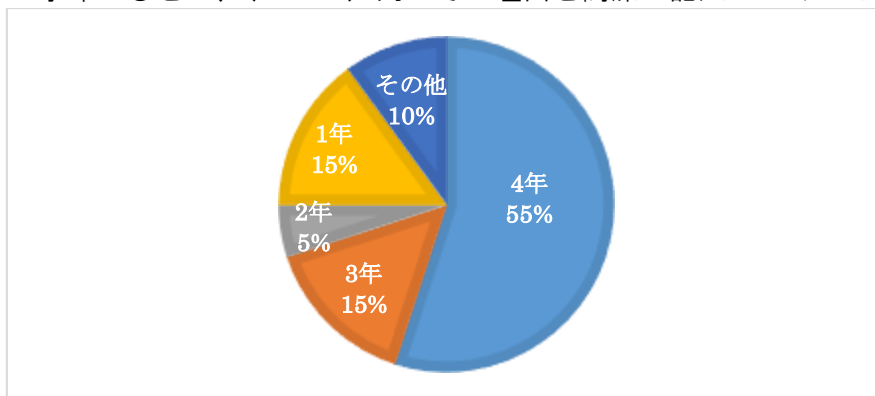
6 その他(具体的に記入してください)

- ・施設内のリービングケアをもっと改善してほしい。
- ・進学したくても子どもはあきらめてしまう傾向があるのでもっと進路支援をしてほしい。



【設問 7】 在学中、何年生の時にいちばん支援金が必要だと思いましたか？

1つ選んで学年に○をし、() 内にその理由を簡潔に記入してください。



★4年生で支援が必要だった理由

- ・就職に伴う引っ越しなどの新生活の費用。
- ・就職活動でアルバイトができなかったため。
- ・就職活動で遠方に面接に行く際の交通費や宿泊費の捻出が大変だった。
- ・所属している学会のイベント等で遠征が多かったため。

★3年生で支援が必要だった理由

- ・実習でアルバイトができなかったため。
- ・就職活動でアルバイトができなかったため。
- ・実習に行く交通費やスーツなどを購入する費用。

★2年生で支援が必要だった理由

- ・大学のシステムの問題だか、大学独自の奨学金で、20歳となり保護者の扶養から外れると、授業料免除が受けられなかった。

★1年生で支援が必要だった理由

- ・生活用品やパソコンの購入、物を揃えるのが大変だった。
- ・大学生活に慣れるまでアルバイトができず、生活費に使える資金が少なかったから。
- ・授業が多いので教材費がかかる。
- ・一人暮らしに必要な物を揃えるのに費用がかかる。

★その他 **在学中ずっと**

- ・精神的余裕や卒業までのモチベーション維持にお金は大事なものでした。
- ・生活費や学費を全て自分で賄わねばならなかったので全学年ずっと。

タイガーマスク基金の進学支援制度では、大学入学時には入学金の準備の他に、施設を出て一人暮らしを始める時期である初年度に12万円の支援金を届けていましたが、卒業生のアンケートによると「実習」や「就職活動」で多忙となる3年次、4年次にアルバイトができなくなるために経済的に困難だったという意見が多数寄せられました。しかも、実習や面接に行くにはスーツの購入や交通費、就職に伴う転居費用など、費用負担が増えます。そこで、タイガーマスク基金では、2017年度より公的な給付型奨学金も創設され、社会的養護出身学生には入学時に一時金(24万円)も支給されることになったことも踏まえて、初年度より3年次、4年次の支援金を手厚くすることにいたしました。

学年	2018年まで	2019年4月入学者より	
	金額(支給時期)	金額	支給時期
1年入学時	12万円 (5月末日6万円+11月末日6万円)	5万円	5月末日
2年進級時	6万円(4月末~5月末)	5万円	(4月末日~5月末日)
3年進級時	6万円(4月末~5月末)	10万円	5月末日5万円+9月末日5万円
4年進級時	6万円(4月末~5月末)	10万円	

全体の支給額を増額するのが理想ですが、一人当たりの給付額を増やすということは、成績等で学生を選抜することになり、「優劣をつけずに一人でも多くの学生に支援を届ける」ことができなくなるため、4年間で30万円という支援金は現時点では変更の予定はありません。

<給付事業のご報告：3> 卒業生たちの感謝のメッセージをお知らせします！

4年間継続支援をスタートして、初めての卒業生を送りだしました。卒業生からのお礼状の一部をご紹介します。経済的なサポートだけでなく、皆さまのあたたかいお気持ちが学生たちの大きな励みになっていたことが、文面からも分かります。ご支援いただいた全ての皆さまに改めて御礼申し上げます！

進学料-タ-の留保

この度、皆様の御支援のおかげで、無事、大学を卒業し就職をすることができました。本当にありがとうございます。この4年間で、私は進学料-タ-の留保から大変多くの奨学金を頂きましたが、私が進学料-タ-の留保から頂いた支援は経済的なものだけではなく、私は、元来人見知りな性格で、大学時代には先手先手で嫌なことがあった時もあり、誰か話しかけてあげてくれる方がいることがとても多かったのですが、半年に一度進学料-タ-の留保から手紙のやり取りをさせて頂き、その手紙の内容に元気をもらい前を向くための読み返すことがありました。「自分のことを応援してくれる方がある」ということを確認できる機会を多く頂けたことは、私にとって本当にありがたく、大学を卒業するまで、本当に大きな支えになっていました。

留保から頂いた御支援を忘れず、前を向き生きていきたいと思っております。4年間本当にありがとうございました。

卒業式当日は学部の総代として壇上に上がらせていただき、改めて大学4年間の辛い思い出も、楽しい思い出も蘇りました。あつという間の4年間でしたが、得るものは沢山ありました。

私が学業と生活を両立させることができたのも、皆様ののおかげだと思います。心から感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

私が頑張る原動力のひとつもありました。このことは一生忘れることはありません。心からは自分が支える側に立ちたいと思います。支えて下さった方に恩返し、社会に貢献できる人として成長し続けたいと思っています。

会ったこともない一学生が私に多大なるご支援をくださり、本当にありがとうございます。

金額以上に、支援をしてくださる方がいるんだということが何よりの支えになりました。